

新型コロナウイルス感染症による本県の文化芸術関係者への影響について

1 新型コロナウイルス感染症に係る本県の状況

【表1】新型コロナウイルス感染症に係る経過（文化芸術関係者の活動に関わるもの）

令和2年 2/28	県主催イベントを原則中止・延期 県立施設を利用する主催者に対して、中止・延期の検討を要請
3/7・8	びわ湖ホールで、プロデュースオペラ『神々の黄昏』を無観客で上演
4月～	芸術家・文化団体等へのアンケート調査、ヒアリングを実施
4/11～5/31	びわ湖ホール・文化産業交流会館を休館
4/23	本県への緊急事態宣言の発出(4/16～5/14)に伴い、イベントの開催自粛、施設の使用制限を県民等に要請 (施設の使用制限の要請は5/15に解除。イベントの開催自粛要請は規模要件を段階的に緩和)
8/3	「未来へつなぐしが文化活動応援事業」を開始
8/6	文化芸術関係者向けの補助金に係る相談対応を開始
8/30～	第50回滋賀県芸術文化祭を開催(9/13～20 写真展覧会、11/12～18 美術展覧会、11/23 文学祭)
11/13	「文化芸術公演支援事業」を開始
令和3年	1/5以降、コロナとのつきあい方滋賀プランにおける「警戒ステージ(ステージⅢ)」を断続的に継続
4/25	(京都府、大阪府、兵庫県等に緊急事態宣言が発出される(～6/20))
8/8～	本県にまん延防止等重点措置が適用される
8/27～9/30	本県への2度目の緊急事態宣言の発出に伴い、イベントの開催自粛を県民等に要請
9/1～	第51回滋賀県芸術文化祭を開催(11/23 文学祭、12/9～22 美術展覧会、R4.1/22～29 写真展覧会) (ただし、緊急事態宣言発令中の主催事業は中止・延期。)

2 県、びわ湖芸術文化財団の対応

(1) 情報収集

【課題】 県内で活動する文化芸術関係者の活動状況を十分に把握できておらず、支援に向けた初動に影響。

- ・ 芸術家・文化団体等へアンケート、ヒアリングを実施。(令和2年4月～6月)
- ・ 支援金の交付に向けた、芸術家・文化団体等の把握(令和2年5月～6月)
- ・ 市町文化施設の開館状況・公募展の開催状況を調査。(令和3年11月)

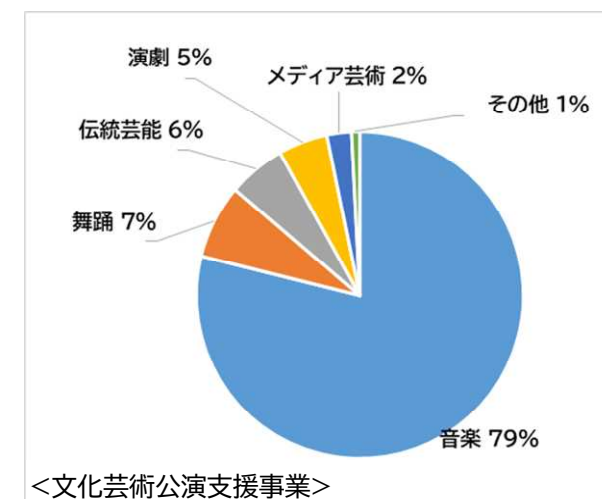
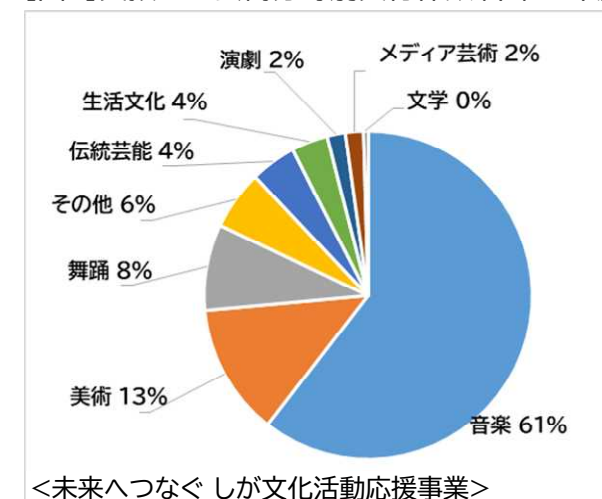
(2) 補助金に係る相談対応(令和2年8月～)

- ・ 文化芸術関係者に対して、補助金申請に係る相談対応等を実施。
＜令和2年度＞ 相談件数: 273件
＜令和3年度＞ 相談件数: 241件(12月末時点)

(3) 補助金等の給付

- ・ 未来へつなぐしが文化活動応援事業(令和2年8月～)
公演等の活動機会を失った文化活動関係者の活動継続を支援するため、感染症対策を実施しながら再開する文化活動に対して補助金を給付。(3/4補助、上限20万円)
＜令和2年度＞ 交付件数: 223件 / 交付額: 34,100千円
＜令和3年度＞ 申請件数: 217件 / 申請額: 36,707千円(12月末時点)
- ・ 文化芸術公演支援事業(令和2年11月～)
コロナ禍における文化芸術公演を支援するため、感染防止対策を実施し、県内文化施設で実施される文化芸術公演について施設使用料を支援。(1/2補助、上限なし)
＜令和2年度＞ 交付件数: 123件 / 交付額: 8,566千円
＜令和3年度＞ 申請件数: 274件 / 申請額: 17,697千円(12月末時点)
- ・ その他、県内中小企業等・個人事業主に対して「滋賀県事業継続支援金」等を給付。
文化芸術関係者による利用実績は不明。

【図1】支援金の芸術分野別交付件数(令和2年度)



(4)発表・活動機会の提供

文化芸術関係者の発表・活動の機会を確保するため、県立文化施設等で展示・公演等を実施。

<令和2年度の主な公演・事業>

- ・ オペラ『神々の黄昏』(R2.3月)
無観客上演とともに、ライブ配信等を実施。
 - ・ 滋賀県芸術文化祭(8月～R3.1月)
主催3事業(美術展覧会、写真展覧会、文学祭)および参加事業(142事業)を開催。
 - ・ 「でっかい練習室」事業(8月～10月)
大ホールの四面舞台を活用し、コロナ禍の芸術家等に練習の場を提供。(599名が利用)
 - ・ 「滋賀近美アートスポットプロジェクト」(9月～10月)
東近江市の古民家を会場に、滋賀ゆかりの若手作家3名の美術作品を紹介。
 - ・ 「びわ湖☆アートフェスティバル BAF2020クリスマス」(12月)
若手アーティストやジュニアオーケストラ、高校生等による公演を開催。
 - ・ 「みんなで音楽会へ出かけよう！」(12月～R3.3)
びわ湖ホール声楽アンサンブルによる公演を8会場で実施。
 - ・ 歌劇『魔笛』(R3.1月)、「長栄座」新春公演(R3.1月)、オペラ『ローエングリン』(R3.3月)等の上演
多数の芸術家等の発表・活動機会を確保。
 - ・ 「びわ湖・アーティスト・みんぐる」(R3.2月) ※「文化・経済フォーラム滋賀」等が主催
県内の若手アーティスト(木工芸、造形等の10名・1グループ)の作品展示と交流イベントを開催。
 - ・ 「滋賀県ピアノコンクール」(12月～R3.2月)、「ザ・ファーストリサイタル2020」・「同2021」(10月～R3.3月)、「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」(9月～R3.2)等の人材育成事業も継続して実施。
-
- ・ 「未来へつなぐしが文化活動応援事業」成果物の紹介
補助金を活用して実施した公演や制作した作品をYouTube等で紹介(289作品(R3.12月末時点))

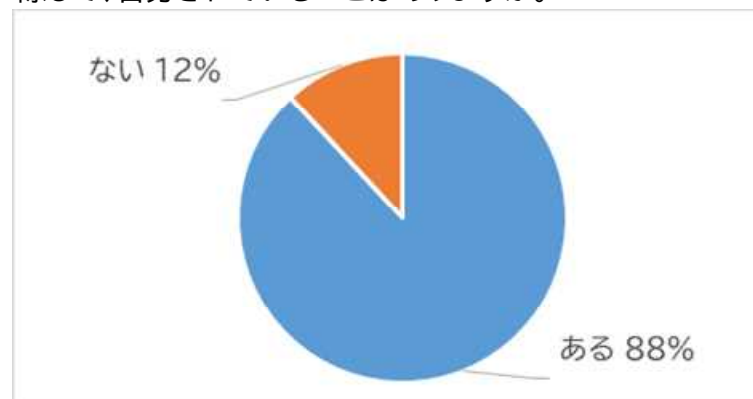


3 本県の文化芸術関係者への影響

- 回答者の88%が、コロナ禍での文化芸術活動において苦勞していることがあると回答。
- その内容として、発表・活動の機会が失われている、生計の維持に不安を感じているとの回答が多い。また、練習環境や機会が不足している、コロナ禍に対応するための知識やノウハウが不足しているなどの理由があがっている。

【図2】コロナ禍において苦勞していること(「未来へつなぐしが文化活動応援事業」に対するアンケート(令和2年度))

(問)新型コロナウイルス感染症の影響により、活動実施に際して、苦勞されていることはありますか。



■「ある」と回答された方の自由記述を内容別に集約

発表・活動機会の喪失

- 主催イベントの減少
感染症対策に係る手間の増加(消毒・検温等の対応・出演者等との綿密な調整)
密を防ぐ広い会場の確保
観客数の減少(外出自粛、収容人数の制限、広報機会(チラシ配布等)の減少)
公演取りやめのリスク
- 依頼公演、展覧会・アートフェア等の減少
- 文化教室・稽古の縮小や閉鎖

生計維持への不安

- 出演・販売機会の減少、講師収入の減少
- 収入等が不安定(公演取りやめ時の収入減少、取りやめ時の経費補填や休業補償制度が不十分)
- イベント等の開催見通しが不透明

練習環境や機会の不足

- 広い練習場所の確保
- 集団での練習・稽古に対する不安(高齢者への感染リスク)
- 団員・会員とのコミュニケーションの不足
⇒ 活動休止による会員等の退会

知識・ノウハウの不足

- 感染症対策の情報・ノウハウの不足
- オンライン公演等のノウハウの不足
- 給付金等の情報不足、申請方法に関する知識の不足

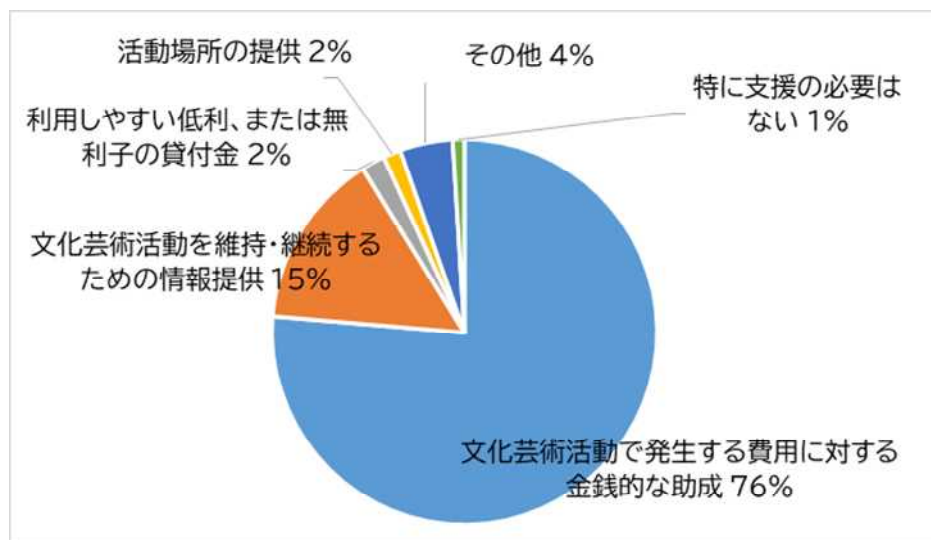
文化芸術の先行き等に対する不安

- 芸術活動へのモチベーションの低下
- 芸術活動に対する市民の批判
- 伝統文化が途絶えることへの不安
- 個人で対応しなければならない不安

- 文化芸術活動を続ける上で必要なこととして、回答者の76%が活動費用に対する金銭的な助成を挙げている。
また、15%が文化芸術活動を維持・継続するための情報提供を挙げている。
- 県・びわ湖芸術文化財団に期待する役割として、94%が事業への助成を挙げている。
また、42%が文化情報の集約・発信を挙げるとともに、文化芸術と他分野をつなぐコーディネーターの設置・育成や、相談・支援機関(窓口)の設置との回答も多い。

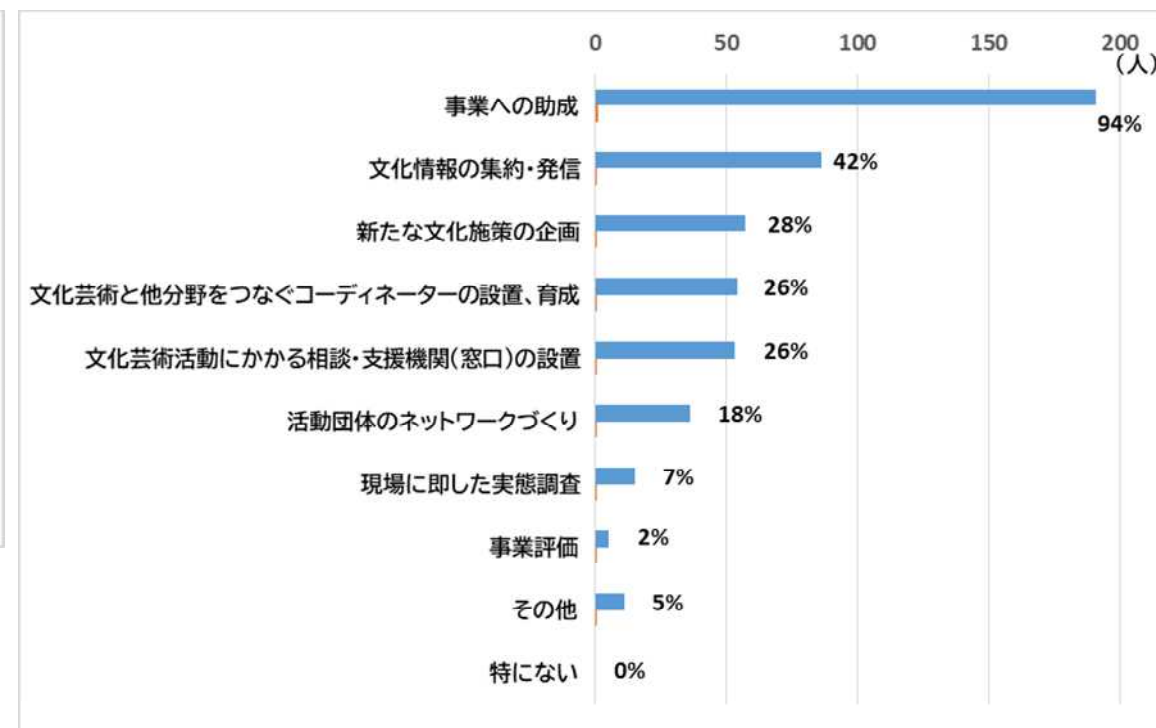
【図3】文化芸術活動を続ける上で必要なこと
(「未来へつなぐしが文化活動応援事業」に対するアンケート(令和2年度))

(問)文化芸術活動を続ける上で必要なことは何ですか。(N=203)



【図4】県・びわ湖芸術文化財団に期待する役割
(「未来へつなぐしが文化活動応援事業」に対するアンケート(令和2年度))

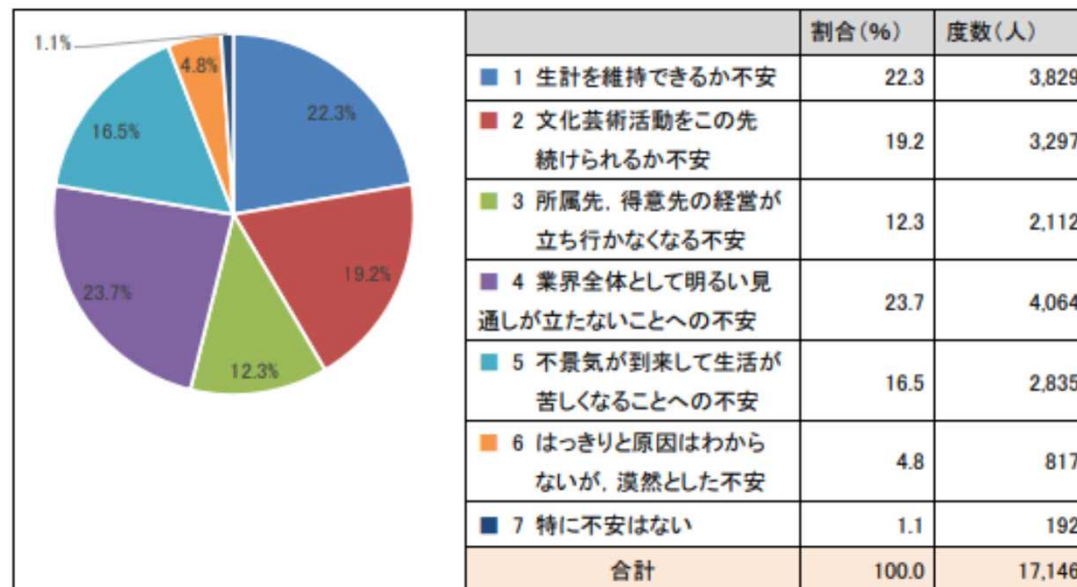
(問)今後、県または公益財団法人びわ湖芸術文化財団に期待する役割は何ですか。あてはまるもの(3つまで)を選択してください。(N=204)



- 文化芸術活動者に対する全国的なアンケートにおいても、生計の維持や文化芸術活動の継続に対する不安が多く挙げられている。
- 文化芸術活動を続ける上で必要なこととして、金銭的な支援を求める意見が多数を占める。
また、コロナ禍に対応した文化芸術活動の再開(49.5%)
や情報提供(29.1%)を挙げる回答も多い。

【図4】コロナ禍において不安に感じていること
(文化芸術活動に携わる方々へのアンケート(文化庁・2020.12))

(問)今(2020年9月)時点で最も不安に感じていることを教えてください。



【図5】文化芸術活動を続ける上で必要なこと
(文化芸術活動に携わる方々へのアンケート(文化庁・2020.12))

(問)あなたが文化芸術活動を続ける上で、今、必要なことを3つ教えてください。

